

令和5年3月18日

静岡大成中学校第19回卒業証書授与式 学校長式辞

ようやく春の足音が聞こえて来る季節となりました。

本日、静岡大成中学校、第19回卒業証書授与式が挙行できましたことを大変うれしく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学して間もない、小学校を卒業したばかりのわが子を、朝から夜まで学校に預けることはさぞ不安だったことでしょう。それから今日まで、陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。この3年間、本校の教育方針に、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

58名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。みなさんの中学校生活がスタートした令和2年は、入学前の3月から新型コロナウイルス感染が拡大し始めていました。卒業式が実施できなかった小学校もありました。本校の入学式は何とか実施できましたが、翌週から5月下旬まで1か月余に渡り臨時休校となりました。みなさんは、友達を作り学校に慣れる大切な時期に、自宅待機を余儀なくされ、先の見えない不安な毎日を送ったことと思います。学校では教職員が一丸となって、オンラインシステムを研究・構築し、ご家庭のご協力を得る中で、課題や授業の配信にこぎつけました。全国でオンライン授業を実施した小中高校が5%に留まったことを考えると、本校は学校と家庭とで良い連携が取れたと思っています。

人間は逆境に立たされた時こそ、それを乗り越える力を身につけ一回り大きく成長できるのだと思います。コロナ禍を乗り切った経験が、これからの皆さんの人生において、必ずやプラスの財産として残ると私は確信しています。

皆さんに伝えたいことを二つ話します。

まず、皆さんが2年生の時から取り組んだ、教育に新聞を取り入れるNIEの活動です。新聞紹介コーナーでは、興味のある新聞記事を探して感想をまとめ、3年生になると、SDGs、持続可能な開発目標をテーマに、一人ひとりが考え、意見交換をして、壁新聞を作り発表し合いました。そして、「生徒会新聞」。地球規模の課題から校内の話題を取り上げ、調べ学習や取材活動を通して記事を書き、4ヶ月をかけて完成させました。私

も「ジェンダー教育がなぜ必要か」という宿題をもらい、日本のジェンダー、男女格差の不平等な実態が世界でも最低ラインに近いことを知り反省しました。

これら一連の取り組みはとても素晴らしかった。社会の問題に目を向け、問題提起し、自分たちの意見を発表していました。この取り組みを、これからはぜひ活かしてください。社会におけるさまざまな問題にこれからも目を向け、解決するためにはどうしたらよいか、自分たちに何ができるかを、一人ひとりが考えてください。考えることが行動につながり、社会を変えていく力となります。たとえば、仕事やボランティア活動や選挙などを通じて、変えていくことができるかもしれません。「誰かがやってくれるだろう」ではなく、自分たちでより良い社会を創っていこうという気持ちを持ってほしいと思います。これが皆さんに伝えたいことの一つ目です。

二つ目は、私が皆さんに言い続けてきたこと、「自分の力で考え、判断し、正しい言葉で伝えることができる」そして、「他者の意見を聞き、他者の立場に立って物事を考えることができる」、この2つの目標です。自分の考えを伝え、相手の意見に耳を傾ける、すなわち対話をすることによって、お互いを知り理解を深めることができます。これからもこれを目標として、友達や先生、家族との信頼関係を築いていってください。

それでは皆さん、高校生活を大いに楽しみながら、常に前を向いて、あきらめずに、目標に向かって走り続けてください。応援しています。

令和5年3月17日

静岡大成中学校 校長 山田 隆司